

## 平成 31 年度を振り返って想うこと

昨年 5 月 1 日の新天皇の即位に伴い「平成」から「令和」という新しい時代を迎えました。そして、国民全体が希望と期待に胸を膨らませたことでしょう。「令和」には、人々が美しく心を寄せ合う中で、新しい文化、新しい時代を切り開いていくという思いが込められているそうです。当院においても新しい病院長をお迎えし、新しい風が心地よく流れていく、そのような職場風土を目指していました。

まず、看護とは何かについて、今一度再考しました。

看護とはサービス業であること、その活動は患者との相互作用であり、プロセスが大切であることを確認し、「Hospitality Mind」「おもてなしの心」を大切にすることを重点目標に掲げました。しかし、看護サービスには形がなく目に見えません。この目に見えない看護サービスを如何に見えるようにするか、看護記録の充実を掲げ取り組んできました。

しかし、突然、状況は一変しました。今年の春、現在のこのような状況（COVID-19 のパンデミック）を、誰が想像できたでしょうか。

今年の 1 月、COVID-19 のヒト - ヒト感染が確認されて以来、当院は第 2 種感染症指定医療機関として、院内感染対策委員会と協同し、COVID-19 関連対応マニュアルの整備を行いました。何度も改定を繰り返しながら、具体的に対応できるように体制の構築を行いました。2 月から COVID-19 疑い患者の受け入れが始まり、3 月の第 1 例目の患者の受け入れを発端に、患者数は増加していきました。私は、舟入市民病院に入職して 35 年あまりになりますが、このような状況は初めての経験です。COVID-19 との戦いが始まりました。

自分自身も感染のリスクを負いながら、最前線で戦っている外来や 6 階病棟の皆さんには、「やらねばならない」という強い使命感を持って対応していただき、感謝してもしきれない思いでいます。また、その他の部署の皆さんにおいても、感染防御のために色々なアイデアや工夫をしていただいています。看護科全体がワンチームとなって戦っていることを実感しています。本当に素晴らしい皆さんと一緒に戦っていけることを誇りに思っています。

職員に対する誹謗中傷もありますが、心温まるお手紙や、支援物資を送っていただくなど、地域の皆さんに支えられていることを実感しています。

大きな試練の時です。長い戦いになります。この戦いをどう戦い抜くのか、まだまだ手探りの状態ではありますが、今こそ、舟入市民病院看護科の底力を発揮し、COVID-19 と戦っていきたいと思います。そして COVID-19 に勝つ！



広島市立舟入市民病院  
総看護師長 森 麻美